



令和5年10月13日

国土交通省関東地方整備局

千葉国道事務所

東日本高速道路株式会社関東支社

千葉工事事務所

首都圏中央連絡自動車道（大栄JCT～松尾横芝IC）

連絡調整会議（第2回）の開催結果について

首都圏中央連絡自動車道（大栄JCT～松尾横芝IC）の現在の進捗状況等について、国土交通省、千葉県及び東日本高速道路株式会社で情報共有を図るため、首都圏中央連絡自動車道（大栄JCT～松尾横芝IC）連絡調整会議（第2回）を開催しましたので、開催結果をお知らせします。

開催日時：令和5年10月13日（金）10時から11時

開催場所：国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所 302会議室

構成機関：国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所

千葉県 県土整備部 道路計画課

東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉工事事務所

議事概要：別添のとおり

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 千葉県政記者会

<問い合わせ先>

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所

電話：043-287-0311（代表）

副所長 山本 裕一（やまもと ゆういち） メールアドレス：ktr-chiba-koho@mlit.go.jp

東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉工事事務所

電話：043-350-3321（代表）

副所長 今藤 健一（こんどう けんいち）

首都圏中央連絡自動車道（大栄ＪＣＴ～松尾横芝ＩＣ）連絡調整会議（第２回） 議事概要

1. 日時

令和５年１０月１３日（金）１０時から１１時

2. 出席者

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所長 藤井 和久

千葉県 県土整備部 道路計画課長 横田 彰洋

東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉工事事務所長 笹原 壮雄

3. 議事

（１）現在の進捗状況について

（２）課題の状況について

（３）今後の開通見込みについて

（４）事業費について

4. 議事概要

○現在の進捗状況、課題の進捗状況

- ・用地取得率は現在 100%。
- ・裁決申請対象地については、引き渡し完了に伴い用地取得が完了し、現在、埋蔵文化財発掘調査を実施中。
- ・全線において、用地取得が完了し、各自治体の協力のもと、埋蔵文化財発掘調査、支障物移設、未発注工事の契約手続きを進めつつ、工事を実施中。
- ・芝山トンネルは、芝山トンネル技術検討会で確認した補助工法の見直しにより、より強度が低くなる区間において安全かつ安定して掘削を進めている。
- ・環境基準を超える重金属が検出されたため工事を一部中止していたが、土壌汚染対策法に基づく千葉県による区域指定が令和5年8月に完了したことから、東日本高速道路株式会社が土地の形質の変更届出書を提出し、令和5年8月21日から工事を再開している。
- ・入札不調が発生していた機能補償道路工事（跨道橋）においては、令和5年10月11日に契約手続きが完了し、順次工事着手予定。

○今後の開通見込み

- ・用地未取得箇所、芝山トンネルの掘削、重金属の対応及び機能補償道路工事（跨道橋）の入札不調などの課題の解決が図られてきており、全体事業工程の目途がたったところ。
- ・そのため、大栄JCT～松尾横芝IC間の開通見込みは令和8年度とする。なお、大栄JCT～国道296号IC（仮称）間は、1年程度前倒しでの開通を目指す。

○事業費について

- ・現地条件の変更に伴う、土質改良等の追加、重金属含有土運搬・処分の追加、トンネル補助工法の見直し、埋蔵文化財発掘調査範囲等の増加、労務費・材料単価の上昇等による事業費の増加が必要となった。
- ・これらの計画変更に伴い、事業費は 1,490 億円から 1,940 億円に増える見込み。
- ・事業進捗や事業費の増加も含めた事業の必要性については、事業評価監視委員会で審議する予定。

○その他

- ・沿線地域では、開通を見越し、新たな開発が計画されるなど、県民や県内の経済団体から開通に対する期待が大きい。
- については、開通見込みの確実な達成に向け、引き続き、関係者間で協力するとともに、開通見込みに関わる新たな課題等が発生した場合、速やかに情報共有を図る。

首都圏中央連絡自動車道（大栄 J C T ～松尾横芝 I C） 連絡調整会議（第 2 回）

説明資料

令和 5 年 1 0 月 1 3 日

国土交通省関東地方整備局
千葉国道事務所
東日本高速道路株式会社関東支社
千葉工事事務所

<目次>

- 1．現在の進捗状況について
- 2．課題の状況について
- 3．今後の開通見込みについて
- 4．事業費について

現在の進捗状況について



用地及び工事進捗

- 平成25年度より用地取得着手。用地取得率は現在100%（令和5年9月末時点）
- 裁決申請対象地については、引き渡し完了に伴い用地取得が完了し、現在、埋蔵文化財発掘調査を実施中
- 大栄JCT～松尾横芝IC間18.5km全線において、用地取得が完了し、埋蔵文化財発掘調査、支障物移設、未発注工事の契約手続きを進めつつ、工事を実施中

凡例： --- : 土工区間 --- : 橋梁区間 --- : トンネル区間

※本体工の施工区分であり、舗装・施設については、全線NEXCO施工

凡例：	用地取得済 及び本線工事着手区間	用地未取得 及び一部工事未着手区間
-----	---------------------	----------------------

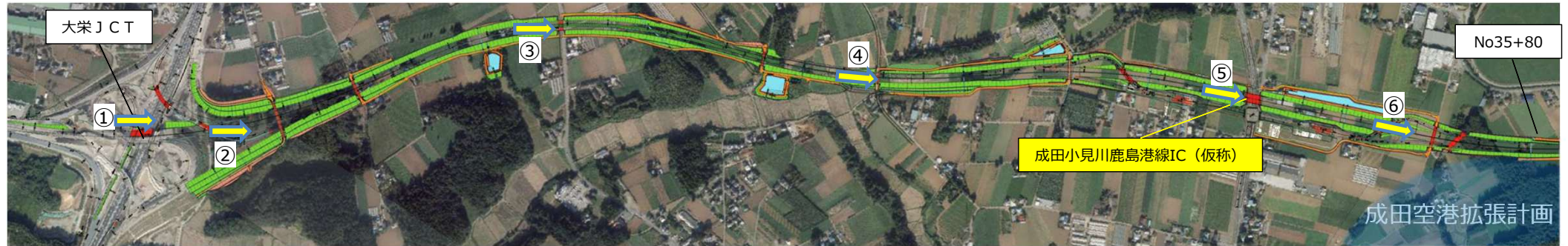
（令和5年7月5日） 前回会議時	施工区分 （本体工）	NEXCO		国	NEXCO				
	工事状況	土工 （施工中）	上部工 下部工 （施工中）	土工 （施工中）	土工 （施工中）	トンネル工 （施工中）	土工 （施工中）	上部工 下部工 （施工中）	土工 （施工中）
	用地状況	※							

※用地取得に向け手続き中

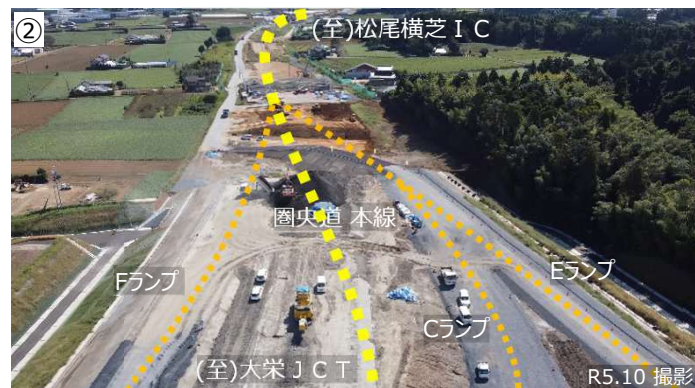
（令和5年10月13日） 今回会議時	施工区分 （本体工）	NEXCO		国	NEXCO				
	工事状況	土工 （施工中）	上部工 下部工 （施工中）	土工 （施工中）	土工 （施工中）	トンネル工 （施工中）	土工 （施工中）	上部工 下部工 （施工中）	土工 （施工中）
	用地状況								

現在の進捗状況について（現況写真①）

■工事進捗状況（NEXCO施工区間：大栄JCT～No35+80）



出典：国土地理院



現在の進捗状況について（現況写真②）

■ 工事進捗状況（国施工区間：No35+80～No83+00）



出典：国土地理院

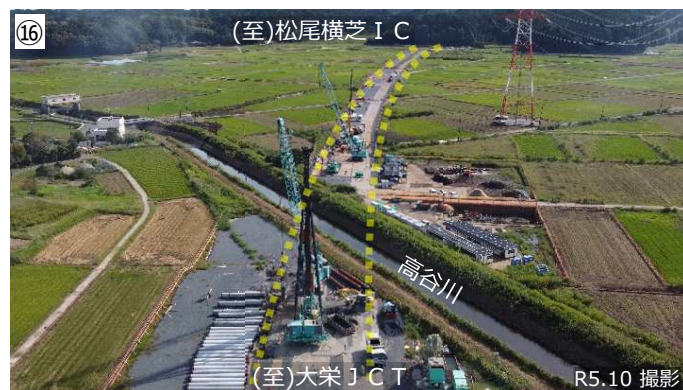


現在の進捗状況について（現況写真③）

■工事進捗状況（NEXCO施工区間：No83+00～松尾横芝 I C）

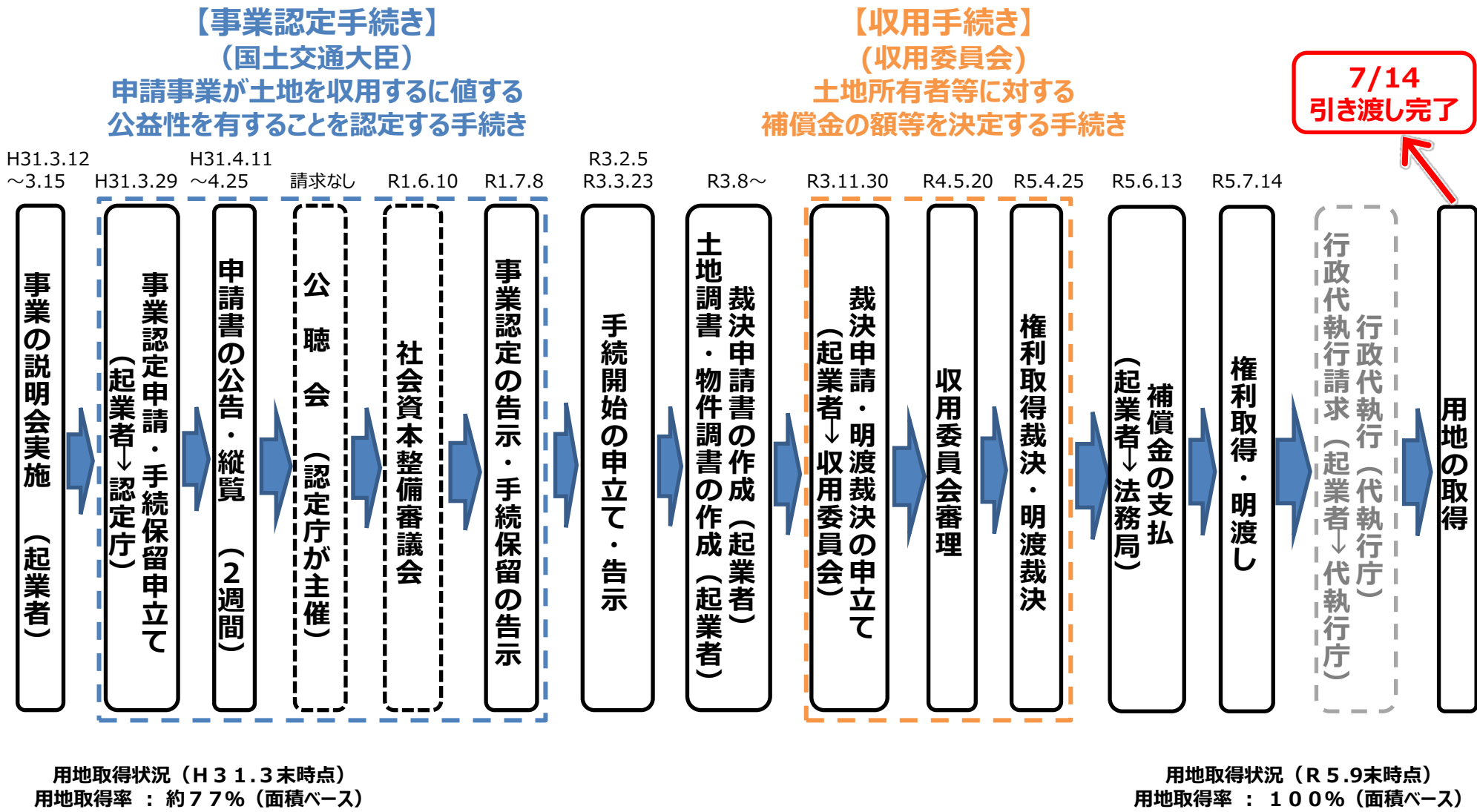


出典：国土地理院



課題の状況について①

収用手続きについて



課題の状況について②

芝山トンネル技術検討会について

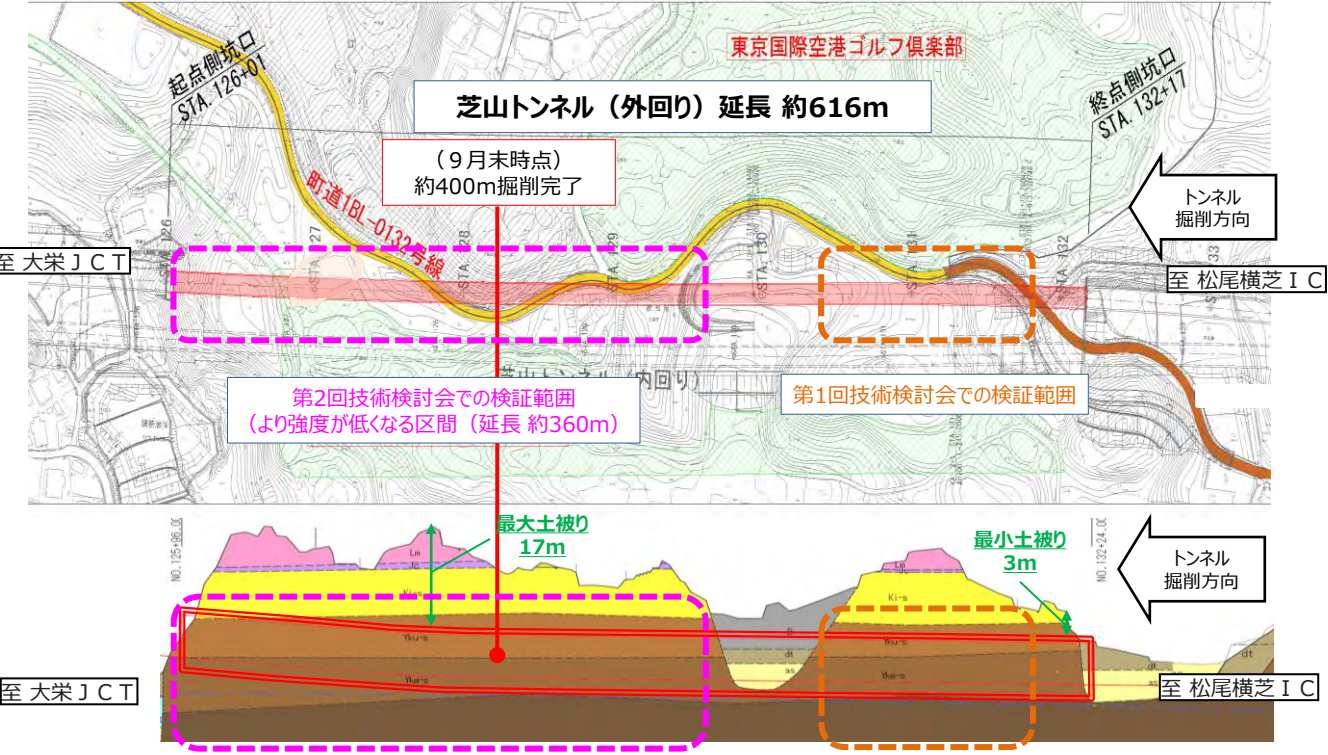
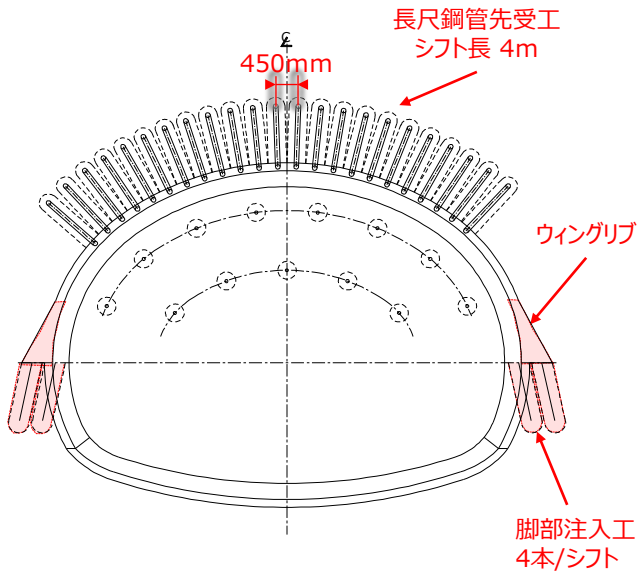
- 芝山トンネルは、砂質土で形成された地質構造（流砂現象※を引き起こす可能性あり）
- 土被りは、約3～17m程度（平均約10m）の小土被りのトンネル
- R5.1より砂地山の掘削開始後、天端部からの抜け落ち等が発生しており、より強度が低くなる区間の掘削における安全対策を検討するために、第1回技術検討会を開催（令和5年3月3日開催）
- より安全に掘削を進めるため、これまでの砂地山の掘削状況等を踏まえ、第2回技術検討会（令和5年6月13日開催）にて、現計画の補助工法の検証、追加の補助工法の必要性等を確認
- 令和5年9月末時点で、約400mの掘削が完了している状況であり、検討会を踏まえた施工により、安全かつ安定して掘削を進めている

※流砂現象のイメージは『砂時計』。流砂現象を止められないと、落ち切るまで対応が不可能となり、砂の特徴から煙突状に砂層を緩めることになる

《掘削断面における天端抜け落ち状況》



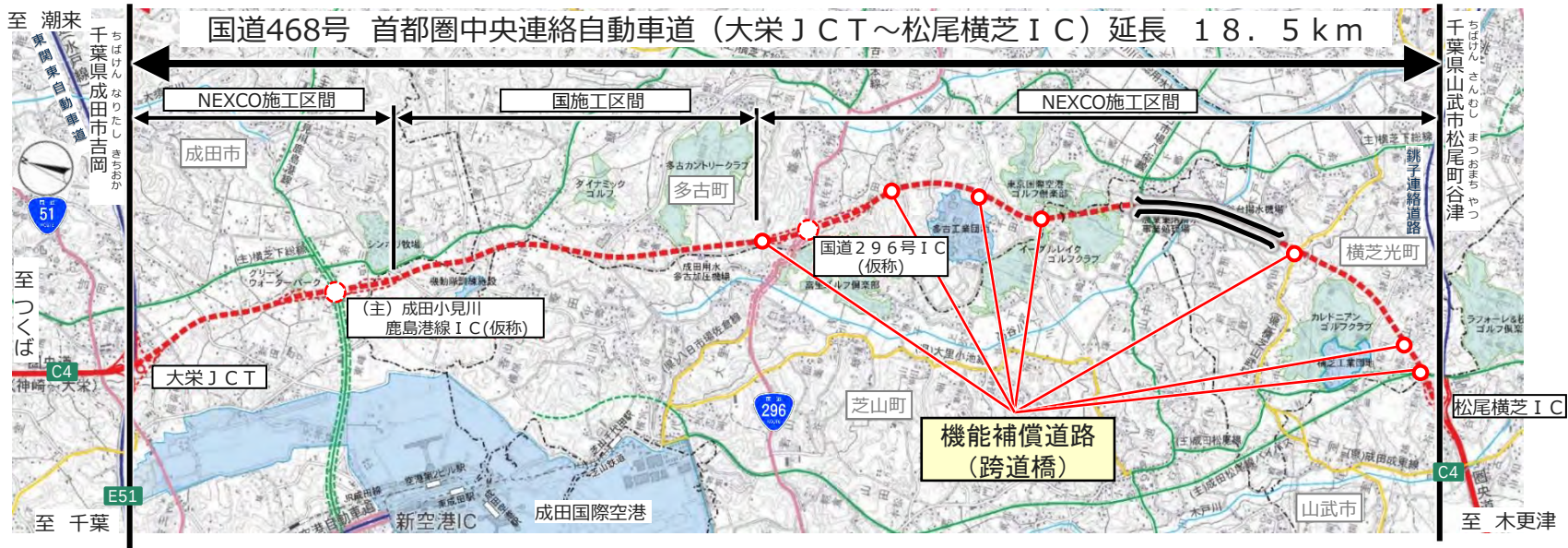
【追加補助工法断面図】



課題の状況について④

機能補償道路（跨道橋）の入札不調について

- 機能補償道路（跨道橋）の工事発注手続きにおいて、入札不調が発生
- 入札不調となった工事においては、令和5年10月11日に契約手続きが完了し、順次工事着手予定



機能補償道路（跨道橋）イメージ



今後の開通見込みについて

今後の開通見込み

- 用地未取得箇所、芝山トンネルの掘削、重金属の対応及び機能補償道路工事（跨道橋）の入札不調などの課題の解決が図られてきており、全体事業工程の目途がたったところ。
- そのため、大栄JCT～松尾横芝IC間の開通見込みは令和8年度とする。なお、大栄JCT～国道296号IC（仮称）間は、1年程度前倒しでの開通を目指す。



※大栄JCT～国道296号IC（仮称）間は、1年程度前倒しでの開通を目指す

事業費の増額の内容について

圏央道(大栄JCT～松尾横芝IC) 延長18.5km



<事象①>重金属含有土運搬・処分と土質改良の追加

・環境基準値を超える重金属(鉛)が新たに検出されたため、約4万m3の運搬・処分を追加。

【土壌溶出量試験】

物質名	調査結果	環境基準
鉛	0.012～0.016mg/L	0.01mg/L

・約516万m3のうち約111万m3の切土発生土は、水分を多く含む柔らかい粘土質であり、そのままでは盛土に使えないため土質改良を追加。

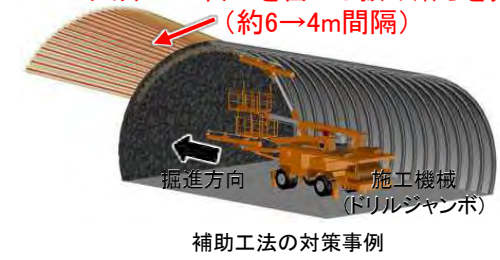


<事象②>トンネル補助工法の変更

・芝山トンネルの掘削施工時にトンネル天端部からの抜け落ち等が生じたため、有識者によるトンネル技術検討会を踏まえ、補助工法の見直しを実施。



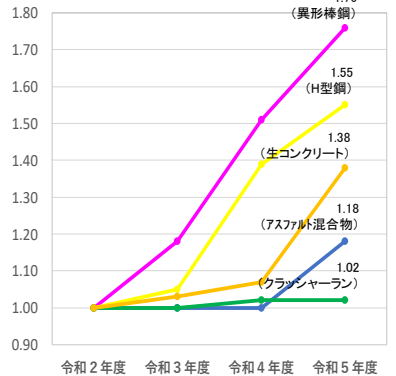
天井の土留めを密にし抜け落ちを抑制(約6→4m間隔)



<事象③>労務費・材料単価の上昇

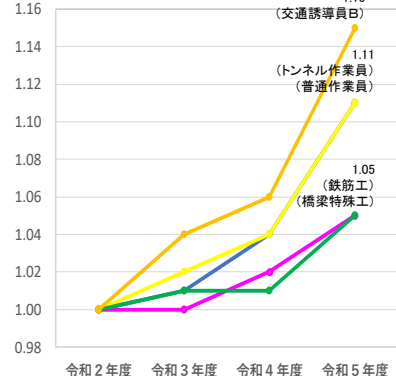
・原材料費の高騰やエネルギーコストの上昇等により、各建設資材価格や労務費が高騰。

■建設資材単価の伸び率 (R2.4を基準に算出)



出典：(一財)建設物価調査会および(一財)経済調査会による材料費の平均上昇率※適用：千葉県(成田) - (但し、異形棒鋼は千葉県、H型鋼は全国)

■労務単価の伸び率 (R2.4を基準に算出)



出典：公共労務費単価の平均上昇率※適用：千葉県